

## Ⅱ-2 虐待防止するための日常の取り組みについて

②～身体拘束・行動制限の廃止と支援の質の向上～

## この時間で学ぶこと

- ・ やむを得ず身体拘束、行動制限する場合（事例を参考に）
- ・ 身体拘束等適正化委員会の活動について（事例を参考に）

## 身体拘束の解除に向けて 個別支援計画の進行と身体拘束等適正化委員会での共有

### やむを得ず身体拘束を行うときの手続き

組織による決定と個別支援計画への記載	<p>やむを得ず身体拘束を行うときには、個別支援会議等において組織として慎重に検討する必要があります。この場合、管理者、サービス管理責任者、運営規程に基づいて選定されている虐待防止に関する責任者等、支援方針に権限を持つ職員が出席していることが大切です。</p> <p>身体拘束を行う場合には、個別支援計画に身体拘束の態様及び時間、緊急やむを得ない理由を記載します。これは、会議によって身体拘束の原因となる状況の分析を徹底的に行い、身体拘束の解消に向けて取組方針や目標とする解消の時期等を統一した方針の下で決定していくために行うものです。ここでも、利用者個々人のニーズに応じた個別の支援を検討することが重要です。</p>
本人・家族への十分な説明	身体拘束を行う場合には、これらの手続きの中で、適宜利用者本人や家族に十分説明をし、了解を得ることが必要です。
必要な事項の記録	身体拘束を行った場合には、その態様および時間、その際の利用者の心身の状況ならびに緊急やむを得ない理由等必要な事項を記録します。

## 身体拘束解除に向けて 個別支援計画の進行と身体拘束等適正化委員会での共有

	身体拘束のケースが発生	経過対応中	身体拘束の解除	通常時
支援現場	緊急での支援会議を招集して方針を検討する	個別支援計画や支援手順書等の見直し	アセスメントを今後に生かす	支援記録の蓄積 手順書チェック 個別支援計画見直し ヒアリハット見直し など
身体拘束等適正化委員会	管理者、虐待防止マネージャー等が状況を把握、共有する	委員会の開催 現場へのサポート	管理者、虐待防止マネージャー等が状況を把握、共有する	研修等の実施 チェックリスト モニタリングと記録データの分析
運営管理	保護者や行政等関係者へ連絡 組織として身体拘束の決定	職員のメンタルサポート	組織として身体拘束解除の了解	情報の共有

## やむを得ず身体拘束をした事例から

	身体拘束のケースが発生	経過対応中	身体拘束の解除	通常時
支援現場	緊急での支援会議を招集して方針を検討する	個別支援計画や支援手順書等の見直し	アセスメントを今後に生かす	支援記録の蓄積 手順書チェック 個別支援計画見直し ヒアリハット見直し など

## 事例 1 居室の施錠 Yさんの事例

### (エピソード)

施設入所当初から不意に他者に手が出ていたYさん。職員が間に入ることでなんとなくやり過ぎしましたが、入所から5か月ほどが経過すると誰かがそばに来るだけで手や頭が出てしまい他害を防ぐことが困難になってきました。また、壁などへの頭突きを繰り返して怪我をしてしまうことも多くなりました。しかし、職員がそばに付き添っていることも苦手で、そのことがさらに課題行動を誘発させてしまいます。



Yさん特性	他傷行為、自傷行為、場面と行動を結び付けてしまう
-------	--------------------------

2019年度

○月○日、他利用者に対しての他傷行為を防げず怪我させてしまう事故が発生しました。勤務していた3人の職員はその場で話し合い、Yさんを居室に誘導して施錠をしました。その後、サービス管理責任者はケース会議を開き、当面の支援方針や行動制限について検討しました。  
身体拘束等適正化委員会でも重ねて議論されましたが、簡単には解決できない雰囲気も感じられる会議でした。

<居室の施錠を解くまでの約4年間の経過の始まり>

(当初の環境調整について)

①玄関前の居室へ引っ越す

(本人用スペースと他の利用者の居住空間の境目に木製のパーテーションを配置して環境を分離した)

②壁や床に額を強くぶるける自傷行為が顕著に見られることから、本人用スペースの全ての壁や床に保護材として、クッションやジョイントマットを取り付けた。

③職員がユニットに入室する時に、他傷行為や自傷行為が出やすいためYさんの居室とスタッフルームの間には段ボール箱を組み立てて緩衝材とした。

④利用者誘導や外部の方(清掃職員、医師の回診、見学者など)がユニットに入る際には、居室へ誘導してパーテーションを立て、合わせて居室の施錠対応もしていた。

(支援について)

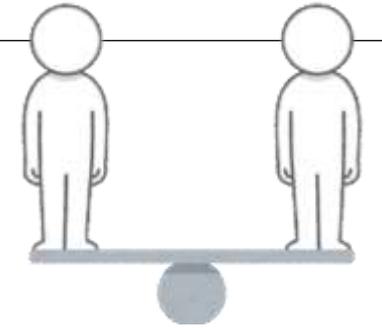
この時期の施錠時間は1日で2時間程度。施錠時の記録をこまめに行うことを統一した。



## 2020年の様子

### (環境について)

壁などに取り付けたクッションやジョイントマットが、業者に注文した保護材になった。



環境が整ったことから、職員から段ボールを外してみたいと言う声があり、スタッフルームとYさんの居室の間に配置していた段ボール箱を外すことを実行してみる。

### (支援対応について)

1週間の評価期間では、他傷行為が消失。

居室と支援員室の間に置いた段ボールを移動可能なソフトなパーティションに変更した。

BUT < 評価期間中には他傷行為が出ていなかったが、その他の期間では他傷行為が表出した >

職員はユニットに入る動線を変えて、Yさんのスペースを通らないようにベランダからその他の方が生活するスペースに入ることに変更。

理由は、居室と支援員室の場所と他害行動を結び付けないようにしたかったため

他者と導線が交錯する際や職員体制が手薄になる時間など居室に誘導した際には、パーティション+居室施錠をしていた。施錠対応時間は前年と変わらず、1日2時間程度であった。

## 2021年度の様子

ここまでの経過と記録から「施錠時間について、短くできるのではないか」というケース会議を行った。合わせてケース会議からの報告を身体拘束等適正化委員会でも行いアドバイスと協力を仰いだ。

- ①職員がスタッフルームで待機し、モニターで確認しながら対応していた時間から段階的に施錠を外すことを実施。
- ②話し合いの中で、活動班で使っているパーテーションは飛び越えてこないことに注目し、ユニットでも同様の対応を試みることを実施。
- ③居室へ誘導する際には、施錠をせず、居室前に配置したパーテーションだけで対応。
- ④段階的に汎化する対応の実施。
  - ➡ユニットの職員がユニットに入るときは施錠しない（1ヶ月）
  - ➡その他の職員がユニットに入るときも施錠しない（1ヶ月）
  - ➡外部の方がユニットに入るときも施錠しない（1ヶ月）

1ヶ月毎の評価を行い身体拘束等適正化委員会で共有した。

- ⑤日中活動班への移動時間も他害や自傷行為が出やすいため行動を記録して対応を変えた。



## 2022年度の様子

Yさんの居室の中にパーテーションを立てるだけの対応で居室へ施錠は必要なくなった。  
日中活動班での活動場所もできるだけ居室から離れた場所で提供できるようになった。  
現在は施錠対応について同意書はいただいているが、施錠実績なく過ごしている。

### Yさんの居住スペース

左側 トイレ 右側 居室 正面 スタッフルーム  
下側 6名の方の居住空間

### 現在

居室ドアの内側にパーテーション



## 以前の居住環境

居室前や生活スペースに  
緩衝用の段ボール  
トイレ  
緩衝用の発泡スチロール  
ドアや床  
緩衝用のマット



## 記録の例 (日々のケース記録と手書きの記録を併用して根拠を蓄積していくためのルール提案)

### 身体拘束に関する記録について (2021年〇月〇日版)

- ・対応量の多さ、タイムリーに記載できないなどパソコンで業務支援ソフトに残すことの不便さにより、身体拘束についての記載漏れや記録からの分析という流れがうまくいかないことに課題を感じていた。  
改善する為に、別紙の書式を作成。既存の身体拘束の記録（業務支援ソフト）と合わせてその場で手軽に書き込む手書きの対応記録を保存する方法試みることにした。

#### <手順>

- ・書式を印刷し、Yさん居室扉に設置したボードに掲示。(毎日ではなく、記入欄がなくなった時の対応者が行う)
- ・対応者は**手書き**で、日付、開始時間、終了時間、理由を対応時に即時記入。(理由は記号でOK)
- ・記入欄が埋まったら、キャビネット内にある専用保存ファイルにしまう。
- ・書面がなくなったら、都度新しい書面を印刷し、掲示しておく。
- ・**エクセルに打ち直さなくてよい**
- ・パーテーションによる一時的な行動抑止は記録を残さなくてよい。  
ただ、必要のない場合はすぐにパーテーション避けて生活しやすいようにする。
- ・**夜勤者は、必ず業務支援ソフトにあるケース記録を記載する。(マスター登録してある記録フォームに記載する)**
- ・月末に身体拘束等適正化委員会が取りまとめている電子データの身体拘束記録表とともに手書き書式も添付する。
- ・ユニットリーダーが確認して委員会に提出する。

#### <展望>

- ・あくまで危険を回避する為の一時的な措置であり、施錠しないでよい生活を目指していく。  
施錠対応を減らすことを支援の中に取り組んでいく。



書式の例 (身体拘束に関する記録・行動観察シート)

ユニット名  K

Yさん

日付	施錠開始時間	施錠終了時間	理由①清掃業者出入りのため ②食事準備のため ③他傷行為あり、カームダウンのため ④他利用者誘導のため ⑤その他（医務訪問のため等）
例	7:40	7:50	②
/	:	:	
/	:	:	

行動観察シート

記録行動：奇声（大声）・表情の険しさ（不穏前兆）

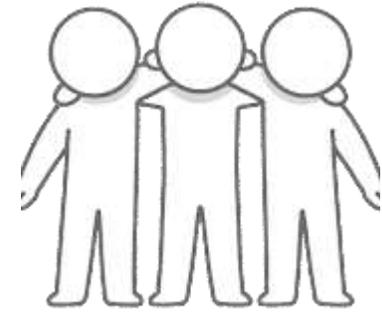
R3.3.2 2～

時間	場所	何をしてる時	周りに居た人	行動（具体的に）	どう対応したか	行動はどうなったか
(例) 2021/3/18	工コ室	緑の課題を提供する直前	工コ室内に他利用者4人と付き添いM支援員	「あさ」のワードから大声を出す	毛布で包み後方から抱える	減少
1						
2						

# 書式の例 (行動観察の記録 日中活動時)

Y氏課題評価表

R3 / ( )



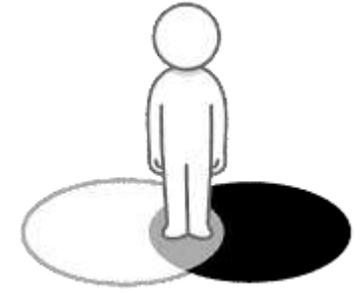
<b>AM</b>					対応者:	
場所: <input type="checkbox"/> エコ室 <input type="checkbox"/> ユニット玄関 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
対応	<input type="checkbox"/> 職員ヘルメット着用 <input type="checkbox"/> ヘルメット対応なし <input type="checkbox"/> その他					
行き	移動	スムーズ	他へ注目あり ( )	自傷行為あり ( )	座り込みあり ( )	
課題	リュック	定位置に入れた	指差し・促しで置くことが出来た	促したが 入れず	<input type="checkbox"/> 靴下脱ぎ <input type="checkbox"/> 座り込む <input type="checkbox"/> 寝転がる <input type="checkbox"/> 職員への過度な関り <input type="checkbox"/> 離席・課題場所から離れる <input type="checkbox"/> <b>頭部をコツコツと叩く</b> <input type="checkbox"/> <b>アゴを叩く</b> <input type="checkbox"/> <b>床に顔・頭部を当てる</b> <input type="checkbox"/> <b>他傷行為</b> <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	1回目	<input type="checkbox"/> プットイン <input type="checkbox"/> 鈴 <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> 玉入れ <input type="checkbox"/> 靴下干し <input type="checkbox"/> ( )				
		フィニッシュBOXに入れる	自主的	促し		実施なし
	フリータイム	提供したもの: 様子:				
2回目	<input type="checkbox"/> プットイン <input type="checkbox"/> 鈴 <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> 玉入れ <input type="checkbox"/> 靴下干し <input type="checkbox"/> ( )					
		フィニッシュBOXに入れる	自主的	促し	実施なし	
帰り	移動	スムーズ	他へ注目あり ( )	自傷行為あり ( )	座り込みあり ( )	
対応気付 次回の注意点						

<b>PM</b>					対応者:	
場所: <input type="checkbox"/> エコ室 <input type="checkbox"/> ユニット玄関 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
対応	<input type="checkbox"/> 職員ヘルメット着用 <input type="checkbox"/> ヘルメット対応なし <input type="checkbox"/> その他					
行き	移動	スムーズ	他へ注目あり ( )	自傷行為あり ( )	座り込みあり ( )	
課題	リュック	定位置に入れた	指差し・促しで置くことが出来た	促したが 入れず	<input type="checkbox"/> 靴下脱ぎ <input type="checkbox"/> 座り込む <input type="checkbox"/> 寝転がる <input type="checkbox"/> 職員への過度な関り <input type="checkbox"/> 離席・課題場所から離れる <input type="checkbox"/> <b>頭部をコツコツと叩く</b> <input type="checkbox"/> <b>アゴを叩く</b> <input type="checkbox"/> <b>床に顔・頭部を当てる</b> <input type="checkbox"/> <b>他傷行為</b> <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	1回目	<input type="checkbox"/> プットイン <input type="checkbox"/> 鈴 <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> 玉入れ <input type="checkbox"/> 靴下干し <input type="checkbox"/> ( )				
		フィニッシュBOXに入れる	自主的	促し		実施なし
	フリータイム	提供したもの: 様子:				
2回目	<input type="checkbox"/> プットイン <input type="checkbox"/> 鈴 <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> 玉入れ <input type="checkbox"/> 靴下干し <input type="checkbox"/> ( )					
		フィニッシュBOXに入れる	自主的	促し	実施なし	
帰り	移動	スムーズ	他へ注目あり ( )	自傷行為あり ( )	座り込みあり ( )	
対応気付 次回の注意点						

## マニュアルの例（判断の根拠）

突然始まる自傷行為が止まらなくなるAさん。

現場で緊急時に判断が必要な場合に対応を統一するためのマニュアル



Lv	本人の行動、状態	対応
5	抑制帯を使用しても頭部をどこかにぶつけようとする等、自傷行動が止まらない。	完全個別対応。頭部を守るクッション等セットした上で抑制ボードを使用。居室内で食事提供。自傷行為が落ち着いた段階でLv4へ。
4	抑制帯を使用することで自傷行為が抑えられている。	抑制帯、車椅子対応。場面切り替え、排泄、入浴は2名対応。2名対応時の自傷しようとする力等を目安に行動制限を解除しLv3へ。
3	両手を後ろに組み、活動量（歩き回る様子、声出し）が少ない。見られない。	食事は全介助。様子を見て自食をすすめる。（すぐに介助せず、見守る等）
2	両手を後ろに組んでいるが、解くこともある。	苦手な活動を無理強いしない。手を強引に解こうとするなどの対応をしない。
1	特筆事項なし	大声、地団駄、他傷行為等あれば別途スケールに従い不穏時薬対応。

## 事例 2 自分で外せないベルト Tさんの事例

### (エピソード)

入所が決まったTさんを受け入れるために移行前の施設を訪問してアセスメントを行いました。お会いしたTさんはズボンのベルトを後ろ向きにつけていて自分でズボンの着脱ができません。それは、激しい自傷行為（肛門など）を防ぐためでした。また便で体や壁などを汚してしまう行動もありました。

入所の面談の際、保護者の方も仕方ないこととあきらめておられて、入所後も同様に対応してくださいというお話をされました。職員たちは変だと感じましたがなんとなくその対応を継続して数か月が経過しました。

### 変化のきっかけ

拘束服を着ているわけではなく、ベルトの締め方が職員によってまちまちで時々ズボンがずれていることがあります。

ある職員が言いました。「もうベルト普通でいいんじゃない？」

## 支援の変化

制限をしない状態でも激しい自傷行為はそれほど頻繁ではなかったですが、毎日の排便後は体や周辺を便でひどく汚してしまいます。

Tさんは、トイレに座ることに強い拒否があり便器に座ることが1度もできませんでした。

結論から言うと、20歳を超えて「トイレで排泄する」という課題にTさんは挑戦することを始めました

自分or誘導にてトイレへ行く⇒便座に座る⇒居室へ戻る⇒職員みんなで笑顔でたたえる  
⇒アイスクリームを食べる⇒日中活動へ（日々の定型的な支援を継続することからスタート）

※イレギュラーな時間でうまくできないことも続いていた。

さすがに無理なんじゃないのか？

ご褒美のようなアイスクリームはどうなの？

もちろんこの1年間の職員たちの苦労は並大抵ではなかったと思います。

トイレに座ることが定着する。

1年後にはうまくできることがほとんどになった。

# 現在

## 4 計画の詳細

達成目標	本人の役割	支援内容・期間
カードを用いた、選択肢、選択場面を増やす。	提示されたカードから自分の好きなカードを選ぶ。	余暇の散歩ルート等、現在行っている場面（余暇時のお菓子選択）の他に、選択できる場面を評価しながらカードを増やし、提示する。（1年）
トイレでの排泄成功率を、更に高める。	①トイレ内での排泄成功時に、強化子を得る。 ②排便成功時に、職員から賞賛を受ける。 ③職員と、排泄すべき場所を確認する。	①強化子となる、好きなものをアセスメントしていき、強化子を定期的に変更する。（1年） ②排便成功時に、関与する職員が称賛の声かけを行う。（1年） ③イラストを用いて、排泄を行う場所を視覚的に伝える。（1年）
職員とのコミュニケーションを楽しむ。	職員と、様々な場面で会話をする。	職員が、場面と合致する適切な言葉を使い、コミュニケーションを積極的に取りながら、本人が好きな言葉を評価していく。（1年）

トイレの課題を乗り越えてTさんはカードを利用して世界を広げ始めています。  
アイスクリームorポテトチップスorコーラ➡どれにしますか？

そして現在、半数のユニット職員はかつてベルトをさかさまにつけていたTさんのことを知らない。

## 事例から考える三要件（切迫性、非代替性、一時性）について

- 切迫性… 利用者本人又は他の利用者の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高い
- 非代替性… 身体拘束、その他の行動制限を行う以外に代替する方法がない
- 一時性… 本人の状態像等に応じて必要とされる最も短い拘束時間を想定する必要がある。

<障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引きより>

事例1は、三要件とも当てはまる事例であったが、非代替性へのアプローチを「鍵からパーテーションへの変化」という支援プロセスの中に見ることができる。

事例2については、三要件の事前検討については少し甘い事例である。しかし、支援開始後も疑問を持ち続け、一時性に対してアプローチした点は参考になるかもしれない。

### 事例から見たこと

- 切迫性… 現場は、常に安心や安全を保障して対応する。支援の基準。
- 非代替性… 切羽詰まった状況では代替案が見えない「わからない状態」が起こる。  
代替案=支援プラン ここを実践し続けていくことが基本。
- 一時性… 最も短い拘束時間を想定する=「戒め」  
無理だと想定しないことは、実践を継続させていく起点。

## 身体拘束等適正化委員会の活動の事例から

	身体拘束のケースが発生	経過対応中	身体拘束の解除	通常時
身体拘束等適正化委員会	管理者、虐待防止マネージャー等が状況を把握、共有する	委員会の開催 現場へのサポート	管理者、虐待防止マネージャー等が状況を把握、共有する	研修等の実施 チェックリスト モニタリングと記録データの分析
運営管理	保護者や行政等関係者へ連絡 組織として身体拘束の決定	職員のメンタルサポート	組織として身体拘束解除の了解	情報の共有

### 事例3 支援の現場と身体拘束等適正化委員会で共有したチェックリストの活用

虐待防止委員会で実施したチェックリストについて身体拘束や行動制限のポイントから深掘してみる。職員のメンタルヘルスについては特に重要。全員で「つらさ」を見逃さないようにすることが大切。チェックリストから掘り起こせることはたくさんあります。

チェックリスト活用の事例 案内文（Googleフォームを利用して実施）

回答期限：〇月〇日～×月×日 全23問です。DVDを視聴して感想を書く欄があるので、階層ごとに割り当てられたコンテンツを視聴してご回答ください。

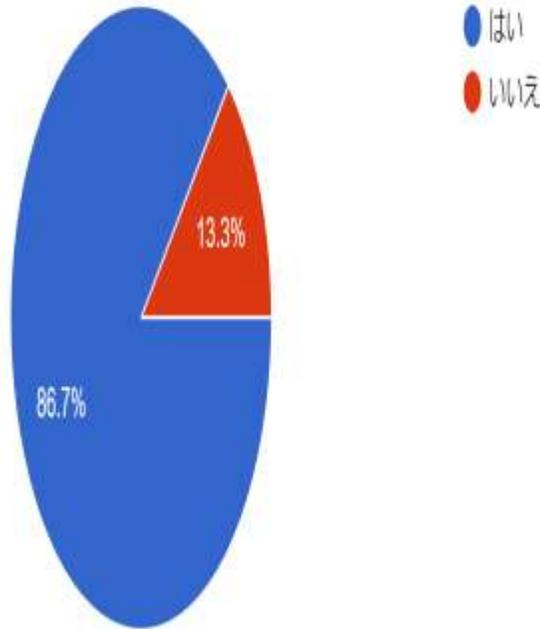
回答の集計結果は後日配布いたします。結果について来月のユニット会議で話し合ってください、議事録に内容を残してください。

## チェックリスト結果についての会議・グラウンドルール

- ①チーム全員を信頼し、オープンであることを心掛ける。
- ②参加者全員、一回以上は発言をする。
- ③一人ひとりの思いや考え、アイデアについて否定しない。
- ④アンケート結果について「誰の回答か？」と追及しない。
- ⑤今後、どうすれば、虐待や不適切な支援をなくせるのか、その具体的な手だてを考える。
- ⑥すぐに改善できる案件については、具体的に期日を決めて計画を立てる。
- ⑦話合いの内容は記録に残す。

11.行動制限（つながぎ・ミトン・不穏時の制止な...、関係者間で十分な話し合いの時間を設けている。

15件の回答



1-a. 「いいえ」を選んだ方はお答えください。話し合いの時間を設けることも含め、解除が難しい理由は何ですか？

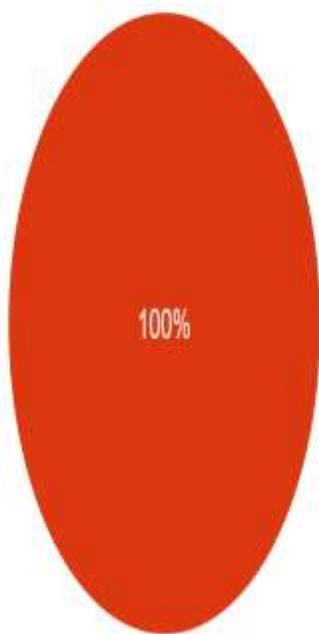
- ・時間が足りていない。支援が不十分の為、本人の状態像に変化がない為。
- ・状態が改善していないため

1-b.解除に向けて少しでも工夫できることはありますか？

- ・定期的に話し合いの場を作る。試しで行った事でも些細な事でも情報共有をする。
- ・定期的に解除に向けてチームで話し合いを行い日々検討を心掛ける。
- ・普段から支援員間で行動制限について話題に出し、お互いに意見交換し制限していることに慣れてしまわないようにする。会議の場で振り返りをする。
- ・購入したことを利用者にも伝えるべきだと思った。
- ・職員間で話し合う機会を増やす。
- ・段階的な解除を行なっていく。一場面だけ解除してみるを積み重ねていく。

12.鍵の施錠に関して、本人・家族などと同意書...した部分以外で施錠を行ってしまったことがある。

15件の回答



● はい  
● いいえ

12-a. 「はい」を選んだ方にお尋ねします。どのような場面でそれを行ってしまったことがありますか？（場面を具体的に記載してください）

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

12-a. 「はい」を選んだ方で、改善に向けてのアイデアがあればお書きください。

0件の回答

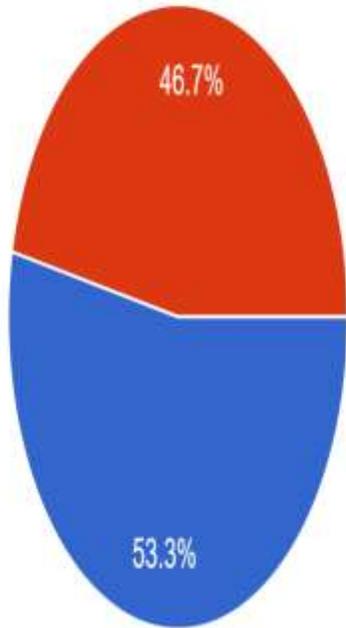
この質問にはまだ回答がありません。

19.支援について、「グレーな支援」と感じたことがあれば記述をお願いします。

- ・ソファで過ごす時間が長い。落ち着かない時は居室に戻す。
- ・身だしなみが不十分なこと。不穏な利用者を居室に誘導するのみで別の対応を行わないこと。
- ・**取り外しが可能という理由でヘッドギアの拘束の同意を取っていないこと。他傷行為があると理由でみんなと一緒にご飯が食べられない。**
- ・身だしなみが不清潔なことがある。
- ・**不適応行動があった際の身体拘束などの対応（非代替性に対する判断をとっさにできない）**
- ・利用者対応がやや威圧的な職員がいる。
- ・利用者が入浴の際に、浴槽から出ることができず、声かけや所定の支援方法を行っても浴槽から出ることが出来なかった場合に、浴槽の栓を抜いて、出てもらったことが何度かある。
- ・**現場を回していくために、職員にとって都合の良いようにしてしまっていることがある。**
- ・職員の勤務や休憩を優先するために、職員主体の支援になってしまうことがある。

## 20.利用者へのサービス提供に悩みがある。

15件の回答



● はい  
● いいえ

### 20-a.

「はい」を選んだ方はお答えください。どんな悩みがありますか？

- ・ 日常業務をこなすことに精一杯で、支援導入やその先に身体が追い付かないことがある。
- ・ 利用者が思う余暇の楽しみ方について、個人に沿った余暇活動の提供が難しい。
- ・ もっと外へ出してあげたい、色々な経験を積ませてあげたい。
- ・ スムースに支援が進まなかった際等に、個々の利用者さんの特性に合わせて支援を調整するのが、まだまだ十分にできていないこと。
- ・ 自分が立てた支援が本当に利用者の為になっているのかと思うこと。
- ・ 利用者の方にとって本人の望む生活の為の支援をしたいが、余裕が無いことが多く、なかなか手が回らない。
- ・ 他害を受けたときの対応。冷静に対応はするが、本人のためになっているのか不明。

## まとめ

### 虐待防止するための日常の取り組みについて

個別支援計画に沿った継続的な支援が基本です。

#### 個別支援計画 (抜粋)

達成目標	本人の役割	支援内容・期間
【行動制限】 治療時に拘束帯を利用せずに受診 できるようになる		治療時に体を動かすなど危険な状況になりそうな時には必要に応じて拘束帯を利用することがある（3か月）

例えば、上記のように個別支援計画に行動制限を記載することがあるかもしれません。記載された目標は備忘録ではありません。個別支援計画に記載されたことは達成をご本人と共に目指すことが本来の形です。身体拘束や行動制限が改善することは難しいかもしれませんがスモールステップであっても解除できるよう進めて行きましょう。

そして、ゴールに向かうためにはチームの協力が必要です。支援現場は個別支援計画を意識しながら統一した支援を行い、法人や事業所全体は、身体拘束等適正化委員会を利用してさらなる改善を目指しましょう。